

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ペルシヤ語人体部位語彙に関する覚え書き : その1 <論文>
Author(s)	縄田, 鉄男
Citation	広大言語 , 10 : 1 - 16
Issue Date	1970-12-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046340
Right	
Relation	



論 文

ペルシヤ語人体部位語彙に関する覚え書き

—その1—

繩 田 鉄 男

1. 目 的
2. 語 彙 表
3. 1. 瞳 / nenīgak /
3. 2. 頭 / sar / と山頂 / sar-e kōh /
— Anthropomorphic Metaphors —
3. 3. あえぐ / nafasak zadan /
4. イラン諸語人体部位語彙比較表

1. 目 的 本稿の目的は(1)ペルシヤ語口語(註1)の分類語辞典作製の将来に備えた資料の中の人体部位に関する資料の一部を提示し、(2)その語彙の若干について、一般的に興味のある問題を取りあげて論ずることにある。

印欧諸語の人体部位名については、

Schrader-Nohring: Reallexikon der indogermanischen Altertums-kund. (Berlin 1917-23) の Korperteile,

Buck: A Dictionary of Selected Synonyms in the Principal Indo-European Languages (1949) の第4章 Parts of the Body ;

Bodily Functions and Conditions — 尤もロシアウエスタ語の語彙は挙げてあるが、その他のイラン系諸語は記載されていない。— その他、Meillet: Introduction à l'étude comparative des langues indo-européennes. (Paris 1837) の語彙の章があり、イラン語、特に東部イラン語に関しては、Tomaschek: Centralasiatische Studien II. Die Pamir Dialekte Pp. 776-789 にある 4. Die Liebesbestandtheile がある。ペルシヤ語に関して、人体部位の語彙

を記載しているもので筆者に今までの所、入手出来たものは、阿波国文庫『華夷訳語』『回回館訳語』の「身體部門」に表われた語彙のみである(註3)。

人体部位語彙の分類については、倭名類抄(古典保存會、大正十五年)(註4)の如く、形体部第三を頭面類十三、耳目類十四、鼻口類十五、毛髮類十六、身體類十七、臟腑類十八、手足類十九、茎垂類二十と分かつことも出来るが、以下に於いては、他のイラン諸語との比較のことも考慮して、服部四郎博士編の『基礎語彙調査表』(1957.8刊)によることとする。番号に線のあるものは本論について述べられるものである。

2. 語彙表 「基礎語彙調査表」(註2)の1.「人体」の項目に記載されている見出語に対応するベルシャ語(口語)の諸形式を記すと以下の通りである。なお同上の見出語に載せられてない語であっても、資料のある場合はそれぞれ関連の見出語の後に記入してある。

記載の順序は次の通りである。番号、見出語(英;仏)、/ベルシャ語の音韻表記/、<意味についての訳、注記など>

- 1 頭(head;tête) /sar/ cf. /tālāq, kūpī/ <頭がい骨> kāsē sar
"The skull": 1-1 かみのけ(hair, cheveux)/mūy/; 1-2 禿げた
(bald)/kal/; 1-3 脳みそ(brain;cerveau)/marz/ cf. /damār/
<脳>; 2 ひたい(forehead)/pēsānī/; 3 眼(eye;œil)/česm/
「文語 čašm」 cf. /pelk/ <まぶた>, /meža/ <まつげ>, kāsē česm(the eye-
socket/nenīgak/mardomak/, <瞳>; 4 まゆげ(eyebrow)/ābro/;
5 涙(tear;larmes)/,ašk/; 6 めくら(blind;abeugle)/kōr/;
7 鼻(nose;nez)/bīnī/ cf. /xelm/ <鼻くそ>, /xūn-e bīnī/ <鼻血>
/par-xāna/ <鼻孔> fīn kadan <鼻をかむ> 8 耳(ear;oreille) /gōš/
cf. /akos/ <槌骨>, /sandān/ <砧骨>, /rekāb/ <あぶみ骨>, /delak, nar-
mēgōš/ <耳たぶ>; 9 つんぼ(deaf;sourd)/kar/; 10 口(mouth;bou-
che)/dān/ cf. /pōz/ <人間,動物の口のまわり>; 11 唇(lip;lèvre)
/law/ 12 舌(tongue;zabān)/zobān/; 13 おし(啞者)(dumb,
deaf-mute)/gong/ cf. /totola/ <どもること> 14 歯(tooth;dents)
/dandān/ cf. /bēra/ <はぐき> 15 つばき(唾)(saliva)/tof/ cf.
/lēr/ <いだれ>; /qay, estēfrāq (文) <胃から吐く,もどすこと>, /ārōγ,
ārūr/ <あくびを出す,げっぷをする>; 16 息をする(breathe)/nafas kaš-

īdan/ cf. /dam zadan/<一息入れる>、/xor zadan/<いびきをかく>、/feš/
<鼻息>、/nafasak zadan/<はあはあ息をする>、/enja zadan/<病氣、疲れなどで呼吸しにくくて、はあはあ肩でいきをする>、/ā kašīdan/<ためいきをする>;

17 声 (voice)/awaz// 18 せき (cough; il toussé)/sorfa/ cf. /sorfa kašīdan/<せきをする>; 19 くしゃみ (sneeze)/aksa/ cf. /aksa zadan/<くしゃみをする>; 20 あくび (yawn, gape; il bâille) /fāže/、/xamiyāza/ cf. /fāza kašīdan/<あくびをする>; 21 あご (jaw, chin)/alāša/、alāša-e bālā (or pāyn)<上あご(下あご)>、/cenār, zanax, zenāx/<あご chin>; 22 顔 (face)/rūy/ cf. /cehra/<顔色、顔附>; 23 ほほ (cheek)/lombos/ cf. /kōma/(ほゝ、口のまわりの部分)、/roxsār/<ほゝ>(文語); 24 ひげ (beard, mustache, whiskers)/borūt/<口ひげ>、/rīš/<あごひげ>、/sabil/<ほおひげ>、
25 くび (頸) (neck; cou)/gardan/ cf. /pas-e gardan/<首すじ、えり首>; 26 のど (throat)/golūn/ cf. /golū/<文語>; /mari/<食道>、/qānqortak/<のどぼとけ>; 27 肩 (shoulder)/šāna/ cf. /bēlak/<肩甲骨>; 27-1 わきのした (armpit)/baral/; 28 腕 (arm; bras) /bāzū/ 29 ひじ (elbow; coude)/arenj/; 29-1 手くび (wrist) /bānd-e dest/ 30 手 (hand; main) dest cf. /kaf-e dest/<掌> /pošt-e dest/<手の甲>; 31 指 (finger; doigt)/kelk/; 32 爪 (nail, ongle)/nāxon/ 32-1 こぶし (fist)/mošt/; 33 胸 (breast; poitrine)/sīna/; 34 乳房 (breast (of woman); mamelle) /pestan/<乳首をも含む乳房全体> lalak (=lōla-e peštane gawe māda) /mama/<母あやの乳房、小児語> 34-1 乳首 (nipple; mamelon)/sar-e pestan/; 34-2 あばらほね (rib)/qaborra) (註5) 34-3 肺臓 (lungs; poumons)/šoš/ 35 心臓 (heart; cœur)/del/<心をいうことがある>、cf. /qalb/<心臓>; 36 腹 (belly; ventre)/šekam/、cf. /sefaq/<腹膜>、/hejab/<横隔膜>、/pošt-e pīdū, zēr-e naf/<下腹部、膝より下の部分> 37 はらわた (guts)/rōda/ 37-1 腸 (bowels; intestins)/rōda/、cf. /rōda-e kalan/<大腸>、/rōda-e xord/<小腸>

/rōda-e rāst/ <直腸>, /rōda-e xālī/ <空腸>, /rōda-e darāz/ <回腸>
 37-2 胃 (stomach; estomac) /me, da/; 38 肝臓 (liver; foie)
 /jegar/ 38-1 腎臓 (kidneys; reins) /gorda/ 39 へそ (navel)
 /nāf/ 40 背中 (back; dos) /pošt/ cf. /moxā, / <脊髄> 41 腰 (wai-
 st; loin; hip) /kamār /meyān/ <雅語>; 42 尻 (arse or buttock;
 cul ou fesses) /kūn/ <尻, 肛門>, /sorīn/ <臀部>, /kafal/ <文語>, /
 /lambar/ <卑語, けつ>, palkūn <卑語, けつ>, lomba <けつ, しり, 大きいしり>,
 /maq'ad/ <肛門> vulg. soqol 42-1 大便 (excrement, dung; excre-
 ments) /gūh/ cf. /rēx/ <下痢便>, /barāz/ <雅語>, /ladū/ <馬, ろばなどの
 の糞>, /tapāla, pāča/ <牛の糞>, /kotī/ <牛, 馬の乾いた糞>, /tapī/ <牛の糞
 (焼料用の)> 42-2 大便する (void excrement, hedejects; il depo-
 se les excréments) /gūh kadan/, /barāz kardan/ <雅語>, cf. /rī-
 dan/ <下痢する>; 42-3 膀胱 (bladder; vessie) /šašdān/ cf. /ma-
 sāna/ <胆のう> 42-4 小便 (urine) /sās/, /bawl/ (雅語), /pēsāb/
 (雅語) /jawāb-e cāy/ <茶(に對する) 答え> 42-5 小便する (urinate;
 il urine) /sās kadan/, 42-4の語と kadan との複合で動詞を作る。
 42-6 屁 (fart) /tiz/, /gūz/ <卑語>, /cos <無音の> /cong/ <小さい屁>
 /corong <小さい屁> /dert/, /qert/; 42-7 陰茎 (penis, verge) /k-
 ēr/, /alat/ <大人の物(道具)> /cakos <卑語, ハンマー>, /cok, cor, cōk,
 cōcor/ <子供の物>, /gol-e yak cesm/ <一つ目の花>, /bol/ <小供のもの>,
 /bolbol/ <小供のもの>, /xar-ker/ <大きい陰茎>, /sōta/ <棒>, /alat-e
 mardī/ <男の道具>, /zakar/ <雅語>, cf. /sarmgāh/ <陰部>, /āb-e man-
 ī/ <精液>; 42-8 睾丸 (testicle; testicles) /xaya/ 42-9 陰門
 (vulva; vulve) /kos/, /farj/ <雅語>, /nāspātī/ <卑語(梨)>, /pondo-
 k/ <処女の少女のそれ>, /qobol/ <卑語(かわぶくろ)>, cāk <卑語(ひび)>, /aw-
 ang/ <卑語(うす)>, /pos, pāpos, babal/ <卑語>, /sōta-xorak/ <卑語, 棒
 だべ>; cf. /ceng/ <陰核>, /taxmdān, mabiz/ <卵巢>, /bacadān/ <子宮>,
 /rahem, zehdān/ <文語>; 42-10 性交する (have sexual inter-
 course) /kos kadan/, /gā'idān/, /kadan/ <卑語(する)>, /zadan/ <卑
 語(うつ)>, 雅語としては, /yak jā sōdan/ <一緒になる>, /ejtema kardan/

/ham-xābī kardan/ <一緒に寝る>, /ba al-xābī/ <添寝する>, 卑語としてなお
 /law-mālī kadan/ <陰唇, 摩擦(を)する>, cf. /jof-tī/ <動物の交尾>, /jof-
 tī kadan/ <交尾する>; 42-11 腿 (thigh; cuisse) /rān/ cf. /suji/
 <大腿骨>; 43 膝 (knee; genou) /zānū/kāsē zānū the knee. pan
 44 脚 (leg) /leng/ cf. /sāq/ <すね>, /pošt-e zānū, coqori-e zē-
 r-e zānū/ <ひかがみ>, /bojolak, setālang <文語> ankle/ bojol/ ankle-
 bone 45 足 (foot; pied) /pāy/ korī/ <かかと> 46 びっこをひく
 (to limp, lame) /langīdan/ cf. /lang/ <びっこの>; 47 からだ (bo-
 dy) /badan/ cf. /andān/ <肢体, からだつき> /lās/ <死体>, /naš/ <死体>
 /tana/ <胴体> /balā-tana/ <上体(腰から肩まで)>; 48 毛 (hair) /muy/
 cf. /bambal, por-muy, babr/ <毛深い, 毛だらけの>; 49 皮膚 (skin; pe-
 au) /pōst/ cf. /arceq/ <かさ, かさぶた>, /pet/ <発疹; rash, 紅疹>, /za-
 x/ <こぶ> 49-1 あざ (birth-mark; bruise) /xāl-e mādarī/, /xāl-
 e xodā, ī/ cf. /xāl/ <ほくろ> 49-2 いれずみ (tattooing; tatovag-
 e) /xāl/; 50 膿 (pus) /cerk/, /rīm/ <文語>, cf. /cerk por kadan/
 <うみがたまる>; 51 汗 (sweat; sueur) /araq/, 52 垢 (dirt) co-
 rk cf. /catal <よごれた>, /calma/ <手や足の垢>, /rēgak/ <目に入ったごみ>;
 53 血 (blood; sang) /xūn/ cf. /rag/ <静脈>, /saryān/ <動脈>;
 54 骨 (bone; os) /ostorān/ (文) ost oxān/; 55 肉 (flesh) /gō-
 st/ cf. /māhica/ <筋肉>; 56 力 (strength) /qāwat/ 57 見る
 (see; il voit) /didan/ cf. /sayl kadan/ <眺める>, /tamāsa kadan/
 <見物する>, /didan kardan/ <視察する> <loq loq didan> <のらむ>; ba-
 nazar, āmadan <目に入る>, nazar, andāxtan <一べつをなげる> 58 嗅ぐ
 (smell; il sent) /būy kadan/ cf. /gandīda, ganda <臭い> /būy bar-
 dāstan/ <くさる> 59 聞く (hear, il entend) /senīdan/ cf. /gōs
 dādan/ <聴く>; /gōs por sodan/ <耳にたこが出来るほどきく>, /gōs māndan/
 <耳をそばだててよくきく>; 60 笑う (laugh, il rit) /xanda kadan/ cf.
 /az xanda gordahā-e xod-rā gereftan, az xanda gorda dard
 sodan/ <大笑いする(笑いでより腎臓が痛む)>; /boq (boqz) zadan/ <笑い声をあげ
 る>; 61 泣く (cry, weep; il pleure) /gerya kadan/ cf. /cer za-

zadān / <子供がはげしく泣く>, / fōqān zadān / はげしく泣く / bey zadān / <子供が
 泣けしくなる> 42 叫ぶ (shout, cry out; il crie) / cīr zadān / <さげ
 ぶ>, / lala kadān / <嘆く>, / fayān kadān / <うなる, うめく> cf. / γorri-
 dan / <(牛や猛獣などが)ほえる>, / faryād zadān / <(救いなどをとめて)さげ
 ぶ, 大声をあげる>, / cīr-o xpīr zadān / <泣きさげぶ>, / cer-o per / <大声で
 わめく>

3.0. 以下に於いては、上表の番号の下に線をほどこしてあるものの中で一般的に興味のある問題をとりあげて行くことにする。記述は必ずしも番号順ではない。()中の数字は見出語の番号。

3.1. 瞳 / nenīgak / (3) プラトンの Alcibiades (アルキビアデス)

1. 133.

ΣΩ. Ενενοήχασ οὖν ὅτι τοῦ ἑμβλεπόντος εἰς τῶν
 ὀφθαλμῶν τὸ πρόσωπον ἐμφαινεται ἐν τῇ τοῦ καταντιχρῦ
 ὀφθαλμοῦ ὡστερ ἐν κατοπτρῷ, ὃ δὴ καὶ κῶρην καλοῦμεν,
 ἑιδωλοσ ἔστιν τι τοῦ ἑμβλεπόντος;

(ソクラテス: それなら、きみはもう気づいているだろうが、眼の中をのぞきこむと、自分の顔が相対する眼のおもてに、あたかも鏡に見るように現われていて、これもまたわれわれは人見(ひとみ)と呼んでいるが、それはのぞきこんでいる者の写影みたいなものである。どうだね。(世界文学大系、筑摩書房版、プラトンの中にある。『アルキビアデス』田中美知太郎訳による。又、ギリシャ語はLoeb版 W.R.M.Lamb, のplato VIIIによった。)

とある様に、ギリシャ語のκορηは本来“少女;人形”と同時に“ひとみ”をも意味していた。これとパラレルな現象はかなり多くの言語で見られる様である。(註6) 英語の“pupil”ドイツ語pupilleはラテン語pupillaの借用語であるが、ラテン語pupillaは“瞳,”と同時に“少女”をも意味する。さて、nenīgak<瞳>にもどらう。

ギリシャ語: uivviov<人形> viv(v)η<祖母> vērvos<叔父> vārra
 <おば>, 近代ギリシャ語 uivī<瞳>

スペイン語: niño, niña<瞳>はラテン語の nonnus m<僧>, アルバニア語 nane
 <母, おば>, イタリア語 nino, ninna<赤ん坊>などと同様に Nursey words と考
 えられる。

ベルシャ語のnenīgakはnenī-g-akと分析出来る。これはxānagak<小さい家>
 がxāna-g-akと分析可能; 即ちxāna<house>プラス接尾辞-ak(-g-は母音でお

ある語との間に挿入される。)と分析出来るのに等しい。ペルシヤ語 /neni/ は「口語」にあつては「赤ん坊、乳のみ児」を意味する。又、mardomak という語もあるが、この方は「小さい人」を意味する。他のイラン諸言語の中、東部イラン語のシグナール語の rācak <原義、少女>、サングリチー語 mardīlak、イシュカーシュミー語 stākak、ワッハーン語 parčad、ゼーバキー語 stāk、オルムリ語 duko もすべて、「小さい女の子」を意味している。又パシュト語の kaḍī、もペルシヤ語 mardomak と同様である。kas は「人、人間」を意味する。

(註7)

人体部位の名称を、動物、あるいは無精の物体から作ったものに、mahīca <筋肉> (55) がある。(註8)

フランス語の prunelle (野生の小李→瞳) の例を参照。こゝで我々の興味を引くのは、かかる視型の隠喩の中の形状に関するもののうち、人体に関係あるものが可成り多いことである。

現代フランス語の卑語で、「頭」のことを、たま (boule)、梨 (poire)、林檎 (pomme) 独楽 (troupe)、天井 (plafond)、柳子の実 (coco) 等々と言うように、その他の部位名に関しても同様に、ほとんどすべての場合に depreciative な意味になることである(註9)

ペルシヤ語の方は、未だ卑語、俗語の研究が十分に行われていないのであるが、それでも上の表からひろいあげると、42-7 の cakōš (ハンマー→陰茎)、sotā (棒→陰茎)、42-9 の nāspātī (梨→女陰)、awang (うす→女陰) など、特に sexual organs のものに、その例が見られる。さらに資料がそろえばもっと他の例も挙げる事が出来よう。

このような例は、英語については、The American Thesaurus of Slang (Berrey and Uanden Barb 編, George G. Harrap & Co., L T O, Second Edition 1954) の IV, Animate Existence 121-124. The Body, の 121. parts of the Body を参照されれば多数の例が見られる。

3.2. sar <頭> と sar-e kōh <山頂>

— Anthropomorphic Metaphor —

知里真志保博士の『アイヌ語入門』(東京:楡書房 1956) の第3章「古代人のこゝろ」に山や川、及び「地形」について、次のような記述がある。

『岬の突端を「エド」(etu) というが、これはもと「鼻」の意であつて、

「シレド」 str-etu 「地、鼻」「山、鼻」「地崎」「山崎」

「イワエド」 iwa-etu 「山、鼻」「山崎」

「オタエド」 ota-etu 「砂原(の)鼻」「州崎」

「シラレド」	sīrār-etu	「岩,鼻」 「岩崎」
「ノテド」	nōt-etu	「岬(の)鼻」 「岬の尖端」
「ピエド」	pī-etu	「石,鼻」 「石崎」
「フルド」	hūr-etu	「丘,鼻」 「岡崎」
「ピラエド」	pīrā-etu	「崖(の)鼻」 「断崖の崎」

などの合成語をつくって多くの地名を構成している。』さらにその39頁-72頁にわたり多数の例が挙げられている。

即ち、頭、鼻、首、顎、胸、腹、尻などが「山」「川」の部分、「地名」に用いられる例が多数見られる。

我々はこれを、Ullman (The principles of Semantics, 1957)と共に Antropomorphic Metaphorsと呼ぶことが出来ると思う。

これは、Bloomfield, Language, P.436の "eye of the needle, mouth of a river, foot of a hill," Paul, Principien der Sprachgeschichte (Tübingen; Max Niemeyer Verlag 1960)の第5章「意味変化」特に、68, 69の両節の Metaphor にその例が見られるものである。

今、ベルシャ語の人体語彙に同種の用法があることをのべよう。

A. a.	sar	<頭>	say-e kōh <山の頂> cf. head
			say-e peštān <乳頭>
			say-e zobān <舌先> etc.
b.	cešm	<眼>	cešm-e sōzan <針の目> cf. eye
c.	gardan	<首>	gardan-e bōtal <びんの首> cf. neck
d.	bīnī	<鼻>	bīnī-e kōh <山の突出部> cf. nose
e.	law	<唇> (文. lab)	law-e deryā <川ぶち> cf. lip
f.	sina	<胸>	sina-e mōtor <車の腹>
g.	kūn	<尻>	

上例とは違って、ベルシャ語の特徴は、たとえば、rūy <顔>; rūya <おもて(着物の)> の様に接尾辞の /-e/ を取ることである。

B. a.	cešm	<眼>	→ cešma <泉>
b.	riš	<あとひけ>	→ riša <根, 木の土地にかくれた部分>;

- c. dest <手> → (水差し, バケツ, 籠などの) 柄手, 把手 <(ドアの) 取手>;
- d. pāy <足> → pāya <円柱, 柱,> <脚> <pāya-a mēz 机の脚>;
- e. gardan <首> → gardana <峠> <(びんなどの)くび>;
- f. nōl <くちばし> → nōla <(道具の)先, 口> <(コーヒー注ぎの)口>, <水差の口>;
- g. par <羽> → <(金属, 木などの)薄板, 薄片>;
- h. pōz <鼻面> → pōza <(山, 岡などの)突き出ている部分>;
- i. law <唇> → lawa <くち, へり>;
- j. dān <口> → dāna <(川の)口, (びん, 管などの)口>;
- k. dandān <歯> → dandāna <(歯車などの)歯, (くし, のこぎり, くま手などの)歯>, <(のこぎりの)目>;
- l. pošt <背> → pošta <小さい岡, 小山>;
- m. zobān <舌> → zabāna <(天びんの)指針>, <(鐘, 鈴などの)舌>, <災の舌>.

これらの例は、種々の言語において、共通に見られるものが多く、たとえばフランス語を例にとると、ventre <腹→びんなどのふくれた部分>, col <頸→峽道>, face <顔→面>, など。(註10)

もっとも、これらの例は、フランス語、ドイツ語、英語、ペルシヤ語等に於いて、同一の現象がみられるというわけではもちろんなく、それぞれの言語の文化的伝統によるものである。

(Bloomfield, Language 1965, P.150のNeither in French nor in German can one speak of the eye of a needle nor of an ear of grain.及び同ページを見られたい)

3.3. nafasak zadan <あえぐ> (16) <息をする> nafas kašīdan に対して、<あえぐ, 息せく; 激しく動悸が打つ> nafasak zadan に見られる様に、/—ak zadan/の形式で/—/の部分の人体部位語で行う動き、動作の反復、多回態、あるいは強意を表わす。

- a. abrōgak zadan <鬚毛を上下にうごかす>
- b. cesmak zadam <またたきする>

- | | | | |
|-------------|--------|-------------|------------|
| 1. 頭 塞 兒 | sar | 2. 耳 鍋 失 | gōs |
| 3. 眼 徹 深 | cas̄m | 4. 鼻 比 匿 | bīnī |
| 5. 口 得 枕 | dahān | 6. 舌 則 邦 | zabān |
| 7. 唇 勒 卜 | lab | 8. 面 羅 亦 | rōi |
| 9. 額 樹 樓 匿 | pēsānī | 10. 頂 敬 勒 | ? |
| 11. 眉 阿 卜 羅 | abrō | 12. 髮 抹 亦 | mōi 里夫 (?) |
| 13. 身 貧 | tan | 14. 背 僕 失 | pušt |
| 15. 首 洗 捏 | sina | 16. 腹 失 看 | sikam |
| 17. 脇 白 額 力 | baṛal | 18. 腰 米 洋 | miyān |
| 19. 腋 那 伏 | nāf | 20. 手 得 思 威 | dast |
| 21. 腿 郎 音 | rān | 22. 脚 肥 亦 | pai |

数字は筆者がつけたもの、又、i : e, u : oの所謂ya-ye ma, rufとya-ye maj-hul, waw-e ma, rufとwaw-e majhulの音韻上の問題もあるが、今は立ち入らない。

(註4) cf. 京都帝国大学文学部国語学国文学研究室編：狩谷棧斎『箋注倭名類聚抄』(全国書房版、昭和十八年)

(註5) テヘラン方言と比較して、相違しているものの中で主なもの：()の中はカーブル方言

cheek : gūne (lombos), chin : cāne (cenāy); gums : lesse (bēra),
 heel : pāsne (kori), hip ; kafal (sorin), jaw ; fakk ('allāsa),
 hiānoy ; ḡolve (gorda), leg ; sāq (leng), lung : riye (sos); r-
 ib ; dande (qaborya), shoulder ; dūs (sāna), wrist ; moc (band-
 e dest), bald ; kacal (kal), dandruff : sūreye sar (sabōsak).

(註6) cf. Ullmann, Stephen : The Principles of Semantics (Glas-
 gow : Jackson, Son & (o.), P. 224に載せてある次の言葉を参照。

Witness numerous terms transferred there (=the human b-
 ody 筆者) from the animal kingdom and the inanimate world :
 'apple of the eye' 'pupil,' 'gubulo' in the sense of 'tête',
 etc.

又、脚注2を参照。

(註7) Klein : A Comprehensive Etymological Dictionary of

the English Languageによると、In its anatomical sense, pupilla is a loan translation of GK. κόρη, "girl", pupil of the eye. とあるけれども如何であろうか。前にあげた Loeb の訳者、Lamb の注記にあれば、The Greek κόρη and the Latin pupilla both meant "little girl" or "doll," and were used to indicate the dark centre of the eye in which a ting image can be seen reflected とある。あるいは、翻訳借用でなくて、独立に生じた語詞かもしれない。

日本語〈ひとみ〉、漢字の〈瞳〉、トルコ語〈göz bebegi〉 (= göz 眼, bebek 小児人形)、ウルドゥー語の ānkh- (or ānkhon) ki putli (ānkh<眼>-ki-<の>〈人形〉)をも参照のこと。

(註8) neni<赤児>: nenīgak<瞳>

māhi<魚, 魚の肉>: māhica 又は māhīgak<筋肉>は共時的にどちらの語詞も用いられている点においては、現代フランス語の tête<頭>が、本来<土で作った鉢> (ラテン語の testa), あるいはドイツ語の kopf<頭>が、本来は<椀→頭蓋骨>であるということとは違う。即ちフランス語、ドイツ語ともに現代では「死んだメタファー」である。なお、ラテン語 musculus 1. 小さいネズミ 2. 筋肉の両義があり、ギリシヤ語 mūs, アルメニア語 mukn も同様に二義あり、さらにラテン語 lacertus に 1. トカゲ 2. 筋肉 3. 肩の筋肉, 腕の上部の筋肉、があるのを参照。

(註9) 日本語の方言で頭をいやしめて「どたま」などと言うが、フランス語のタマ (boule) が卑語で「頭」を表わすのと関連させて興味ぶかい。〈ど〉という接頭辞には、あまり productivity は無いようであるけれど。

上田萬年、松井簡治共著:『大日本国語辞典』(東京・富山房)には、
(接頭) 或る語に冠して、多く罵る意を表わす語。どう、「ど畜生」「どしようぼね」「どたま」、

大槻文彦著『大言海』(東京・富山房)には、

(接頭) 或語に冠ランテ、嘲り卑シム意ヲ表ハス語。「ど百姓」「ど瞳」

金沢庄三郎編『新版 広辞林』(東京・三省堂)には、

ど(接頭) ある語に冠してののしる意を表わす。「——めくら」「——根性」などとある。

(註10) これらには、枚挙にいとまないほどの例がある。cf. ドイツ語 Nase, フランス語 nez; ペルシヤ語 bini, 英語 nose を参照。その他それぞれの辞書にあたれば、色々の例

が見られるであろう。以上は、いずれも、具体的な例ばかりであったが、人体部位の語彙が、日本語においても、「腹が立つ」「腹が黒い」「腹がすわっている」「腹のむしがおさまらぬ」「腹を見られる」「腹を合やす」「腹をこやす」などという熟語として多く用いられる。中にはヨーロッパの言語とも共通のものもあり、ペルシヤ語 *sekam por kadan* <腹をいっばいにする、腹をこやす、私腹をこやす>, *šāna dādan* <肩を与える、かす> <助ける>, など日本語と同様な表現も見られる。詳細はさらに研究が必要である。cf. Bloomfield (Language, 1965) PP. 148-P. 150 を参照。

又、次の例を参照。

bīl <spade> — *bīlak* <Shoulder, blade
cf. *sāma* <comb>, *sama* <shoulder>

4. イラン諸語人体部位語彙比較表

他の印欧語との比較に役立つために、Buck .C.D. : A Dictionary of Selected Synonyms in the principal Indo-European Languages の内

4. 11—4. 492 に対応する現代イラン諸語の若干を記載する。番号は Buck のそれ。

資料は筆者のノートから取った。Avesta のみは Buck のもの。

以下の略号は次の通り

Av	= Avesta,	Pers	= Persian
w	= Wakhi,	Sh	= Shighni,
Bal	= Balochi,	Pasht	= Pashto,
M	= Munjani,		

	Av.	pers.	w.	sh.	Bal.	psht.	M.
4. 11. Body	tanū-	badan	badan	badan	lāša	tana	tan
4. 12. Skin	čareman	pōst	pīst	pūst	pōst	pōst	karust
4. 13. Flesh	gav-	gōšt	gūšt	gūšt	gōšt	γwəš	γūš
4. 14. Hair (of Head)	gaona-	mūy	šafč	γūnj	mūd	wēštə	puya
4.142. Beard	rīš	regīš	būn	rīš	žira	būn
4. 15. Blood	voħunī-	xūn	wuxən	wixēn	'ōn	wina	īna
4. 16. Bone	ast-	'ostoγān	'ayšč	sitxūn	'add	hadukay	yastin
4.162. Rib	parəsu-	qaborɣa	purs	perc	pālunk	puštəi	pərsəɣi
4. 17. Horn	srū-,srvā	šāx	šāx	xāš	šāxluk	škər	šū
4. 18. Tail	duma	domb	bičkām	ɣum	dum	lakəi	ləm
4. 19. Back	paršta-	pošt	dām	dām	bad	šā	pušk'a
4. 20. Head	sarah-	sar	sar	kal	sar	sar	pūsir
4.202. Skull	mastreγan-	kalla	kapāl	kapāl	kalla	kuprəi	k'emalya
4.203. Brain	mastreγan-	maɣz	ma z	maɣz	maɣz	māɣze	maɣz
4.204. Face	ainika-, čiora	rūy	rūy	pīc	dēm	mex	rūy
4.205. Forehead	ainika-	pēšānī	ruk	pīšuna	pēšānī	tanday	pīšānī
4.206. Eyebrow	brvat-	'abrō	vraw	vrūž	'abrō	wrudza	vriɣa
4.207. Jaw	zānu-	'alāša	zanax	lēšā	kalak	zāma	k'elika
4.208. Cheek	lombos	lunj	pīc	kapunc	bārxū	ruxsāra
4.209. Chin	cenār	zanūk	zana
4. 21. Eye	čašman-	cešm	čažm	cēm	cam	stərga	čām
4. 22. Ear	gaoša-	gōš	gīš	γuž	gōš	ɣwaš	γūy
4. 23. Nose	nāh-	bīnī	mis	nēc	pōz	paza	fisk'a
4. 24. Mouth	zafar	dān	raš	γēv	dap	xwlə	yirv
4. 25. Lip	aosta	law	lafč	sand	lunt	šunda	kəperi
4. 26. Tongue	hizvā-, hizū	zobān	zīk	zīv	zwān	žaba	ɣəvī
4. 27. Tooth	dātā-dantan	dandān	dandək	ɣindūn	dantān	ɣāš	lāndi
4. 28. Neck	manaoθri, grīvā-	gardan	gərdan	māk	gardan	ɣāra	škey
4. 29. Throat	gareman-	golūn	'alqūm	nāy	gut	stunəy	ɣərvā
4. 30. Shoulder	supti(daos ^v)	šāna	yīsp	fiyak	kōpag	uža	fiyāki
4. 31. Arm	bāzu-	bāzū	yurm	bāsk	mət	vəzɣa
4. 32. Elbow	arəθna	'ārenj	brət	wiščern	'ārunj	cəngwəl	razn
4. 33. Hand	zasta	dast	dast	ɣust	dast	lās	lāst
4. 34. Finger	angušta	kelk	yangl	angišt	čangul	gweta	ayušk'a
4.342. Thumb	šast	gatagweta	starayušk'
4. 35. Leg	paitištāna	leng		pāɣ	lang	lēngay	pāla
4. 36. Knee	žnu	zānū	brīn	zūn	zān	zangūn	zūk
4. 37. Foot		pāy	pāz	pāɣ	pād	pšə	pāla
4. 38. Toe	angušta	kelk
4. 39. Nail	srū-,srvā	nāxon	dəg ^v tr	nāxūm	nē'ūn	nuk	nāxon
4.392. Wing	parena	bāl	par	bāl	bana	vāzəɣa

4.393. Feather	parəna	par	par	par	banaka	pīnki
4. 40. Breast (Front of Chest)	varah	sīna	pəsbar	sīna	gwar	dzigar	sīnī
4. 41. Breast (of Woman)	fštāna	pestān	pīzn	bīšīn	gūdān	təy	šikīn
4. 42. Udder	pestān	gwar	ɣulāndza	pistin
4. 43. Navel	nāta	nāf	nāf	nāf	nāpag	nū	nēf
4. 44. Heart	zərəd-	del	pəzṭv	dil	zird	zrə	dil
4. 45. Liver	yākare	jegar	jigar	jigar	jagar	ina	jigar
4. 46. Belly	udara-, maršū-	šekam	dūr	qič	pid	nas	darūn
4. 47. Womb	garewa-, bareθri-	bacadān	zēdān	zaylān	vezaxa
4. 48. Egg	(āvaya)	toxm	toxmer	šūxtarmux	'āmurg	agəi	aryux
4. 49. Testicle	erezi-	xāya	məɣrj	or	gund	xwəta	ɣālk'a
4.492. Penis	fravaxs-	kēr	pat	ʃuš	kēr	ɣin	čul

Addenda. 1.

喉	仏仏	qānqortak
十二指腸		rōda-e 'asnāšar
乳房(羊, やぎ, 牛の)		lālak
乳	腺	ɣodda-e pestān
尿	道	mojrī-e pēšāb
人	糞	catalī
腔		bātan-e farj, mahbab
亀	頭	sar-e zakar

Addenda. 2. (註5に対する)

sūrat	(nrūy)	顔
'angošt	(kelk)	ゆび(指)
kabed	(jegar)	肝臓
sebīl	(borūt)	口ひげ
loxt	(loc)	裸の

Herat と Hazara 族の方言を参考のために挙げる。

jajan (neck-bone)	qāš (eyebrow)
awdīda (tear)	qax (cough)
ipsa (yawn)	kūn-e jūr (elbow)
qaptal (wrist)	qetta (belly)
myān (waist)	domba (buttocks)
gamez (urine)	gūz (fart)

(以上ハズラ族方言)

pīnak (forehead)
koxxa (cough)
lambōs (cheek)
zangīca (elbow)

damār (nose)
canar (chin)
keft (shoulder)
delband (liver)

(以上、ヘラート方言)